

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 度会校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し、活力ある教育活動を展開する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○総勤務時間縮減を意識し、ワークライフバランスを大切にする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。 <地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。 <中学校> 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。取組内容の中学生及びその保護者への浸透。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。 <町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。 <地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。 <地域活動団体> 生徒による地域の活性化への貢献。	<保護者> 学校と連携した家庭での生活指導・学習活動への協力。 <町・町教育委員会> 地元中学校との連携を円滑に進めるための協力。地元への就職支援。 <地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。 地元企業の採用増加。 <地域活動団体> 生徒が活躍できる多様な機会の提供。
(3) 前年度の学校関係者評価等	・挨拶等の指導は重要。単に「おはようございます」「さようなら」といっただけではなく、「失礼します」「〇〇を取りに来ました」「〇〇先生はいらっしゃいますか」といった基本的な言葉遣いを身につけることは進路実現のためにも重要。 ・学習意欲を育むためには、指導の前に信頼関係を築くことが必要になる。指導法や教材の工夫といったことだけでなく、信頼関係をつくることを意識した取組も大切。 ・アルバイトは様々なことを学ぶ機会として有効。もっと活用できるのではないかな。 ・オンライン学習にあたっては、同時にデジタルではできない体験を盛り込むことが重要。二次情報と一次情報の価値は全然違う。一次情報を得る体験をつくるとよい。例えばこれまでやってきている茶摘みや交流学習などはよい。 ・ICTは、学校だけで対応するのは困難。例えば学校HPなどの管理は外部委託するとか、メディアリテラシー教育は外部講師を呼ぶとかするべき。一人一台端末関連のことも専門家に委託できるとよい。	

(4) 現状と課題	教育活動	多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。 また、福祉活動や「出前図書館」など地域と連携した取組を推進している。 今後、こういった取組をさらに充実させることにより、生徒一人ひとりの成長を促し、希望進路の実現に努める必要がある。
	学校運営等	地域に密着した県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、ボランティア活動・地域行事への参加等さまざまな取組を行い、地域から一定の評価を得ている。 今後さらに、学校の取組を地域の中学生やその保護者に浸透させ、入学者を確保していく必要がある。 また、南勢校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく必要がある。併せて、両校舎の教職員数の減少を受け、様々な校内組織の見直しを行う必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・ 自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を育む。 ・ 高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる力を育む。 ・ 個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成する。 ・ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ・ 二校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行うとともに、合同の部活動等を通じて生徒の交流を促進する。
学校運営等	・ 地域の多様な主体と協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。 ・ 南勢校舎と共に一つの学校としての機能を強化していく。 ・ 業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教職員の一層の資質向上に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導等の充実	(1) 基礎学力の定着を図り、基本的な学習習慣を確立させる。 【活動指標】日頃から授業規律の徹底を図り、学び直し教材を利用した学習を行うとともに、基礎力診断テストを1・2年生対象に年3回、3年生対象に年1回実施する。全教員による補習を実施する。 【成果指標】基礎力診断テストによる基礎・基本養成レベル(D3ー)の生徒が10%未満となり、上級判定となる生徒が増える。 (2) 校則にかなった服装を徹底させ、規律を守り、落ち着いた生徒を育成し、落ち着いた学校を浸透させる。 【活動指標】学期に2回程度、頭服指導を行い、また日常からチェック制度を維持し、指導を行う。 【成果指標】生徒は自己管理能力を高め、高校生としてふさわしい行動・身なりを身につける。 (3) 生徒が安全に安心して学校生活が送れるよう教育相談体制の充実に努めるとともに、生徒はもちろん、保護者・地域と連携し、いじめを許さない学校づくりに取り組む。 【活動指標】いじめ防止に関わるアンケートを学期に1回行い、日常から生徒指導、教育相談の機会を設ける。 【成果指標】生徒は小さな問題でも教員に相談することができ、安心して学校生活が送れることができる。 (4) 交通マナーを守る生徒を育成するとともに、交通事故がなくな		◎

	るように取り組む。 【活動指標】自転車安全指導を企画し、外部から講師を招いて安全教育を行う。また毎月、期間を決めて街頭での交通指導を行う。 【成果指標】生徒に交通安全の意識が高まり、登下校中の危険が減少する。また、交通ルールを遵守する意識が高まる。		
ICT を活用した授業等の推進	(1)教職員が以下の視点を大切に ICT の活用に取り組む。 ・ICTを活用することにより、個々の生徒に応じた指導を推進する。 ・生徒の ICT 活用能力を育てる。 ・ICT を活用することにより、「協働的な学び」を推進する。 ・ICT を活用することにより、何らかの理由で登校できない生徒の学習や、非常変災等による臨時休校時における学習を保障できる体制をつくる。 【活動指標】ICT を活用した授業等の推進するための教職員研修を2回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりの ICT 活用のスキルが向上する。		
キャリア教育の充実	(1)社会人として必要な態度・マナーを習得させ、将来にわたっての社会貢献を考えさせる。また、自らの適性を理解し、自己肯定感を持つとともに、生きることの尊さや生命のかけがえのなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。 【活動指標】進路ガイダンスや手厚い個別指導を行う。 【成果指標】就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格 100%		※
改善課題			

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)教職員一人ひとりのコンプライアンス意識をよりいっそう向上させる。 【活動指標】学校信頼向上委員会を積極的に活用し、不祥事根絶に向けての教職員研修を年3回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりに、コンプライアンスに主体的に取り組む姿勢が育成される。 (2)教職員一人ひとりの人権意識をさらに向上させる。 【活動指標】教職員対象の人権講演会を年1回以上実施する。 【成果指標】教職員一人ひとりにより、より充実した人権教育が実践される。 (3)教職員一人ひとりが、特別支援教育の観点から、生徒の実態に即した対応が出来るようにする。 【活動指標】特別支援教育研修会を年1回実施する。 【成果指標】生徒の困り感に対して、特別支援の視点から柔軟な支援がなされる。 (4)防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。		◎

	【活動指標】 防災訓練等を年2回実施する。 【成果指標】 生徒の安全・安心な学校生活が保障される。		
情報提供による信頼の構築	(1)学校の教育活動や生徒の取組等について、報道機関等へ積極的に情報を発信する。 【活動指標】 ・行事等の取組を年5回以上、報道機関へ情報提供する。 ・ホームページによる情報提供を適宜行う。 ・授業公開、学校見学会等を年2回実施する。 【成果指標】 ・地域の広範囲に学校の取組が伝わる。 ・ホームページが最新の情報を得るツールとして定着する。 ・中学生やその保護者等に学校の様子が正確に伝わる。		
働きやすい職場環境づくり	(1)総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合 100% 【成果指標】 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 13時間/月 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 21日/年		※
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかにになった改善課題と次への取組方向	
----------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
学校運営についての改善策	